

OB通信

鳳 翮

復刊第16号

= 2015年8月 =

山口大学ワンダーフォーゲル部OB会

鳳翮会

目 次

はじめに	鳳翔会会長 武富 敏夫	1
1 本部・支部連絡先		3
2 会長及び事務局からOBの皆さまへ		4
3 平成27年鳳翔会総会案内		6
4 顧問挨拶		
(1) OB通信に寄せて	人文学部准教授 池田 勇太 先生	8
5 各支部活動状況(平成26年12月～平成27年7月)		
(1) 東京支部 秋山 高弘		9
(2) 関西支部 池田 純		10
(3) 山口支部 池富士 清		10
(4) 九州支部 武富 敏夫		11
6 会員近況		
(1) 「流山のぼろ会」での山行記	東京支部 弓削 哲也	12
(2) 屋久島・杉巡りハイキング	東京支部 三浦 静止	13
(3) ときどき山のぼり	関西支部 池富士 芳雄	15
(4) 十種ヶ峰に登りませんか?	山口支部 川地 翔子	16
(5) 卒業以来の近況報告	九州支部 光山 史苗	17
7 同期会だより		
(1) 昭和45年卒同期会山散歩報告「萩往還歩きと一の坂川ホテル観賞」	関西支部 藤原 正明	18
8 ワンゲル今昔(松本ぼんぼんから山口ボンボンへ)		
(1) 松本ぼんぼんの思い出	山口支部 齊藤 昌彦	19
(2) 「山口ぼんぼん」について	九州支部 富田 和郎	20
(3) 山口ボンボンの現況	4回生 小林 遼大	22
(4) 山口ボンボンの歌詞		23
9 現役活動報告		
(1) 執行部近況報告		24
(2) 春合宿報告		24
(3) 平成27年度山口大学ワンダーフォーゲル部活動計画表		25
10 編集後記		26

はじめに

鳳翔会会長 武富 敏夫

北陸新幹線が3月14日に開業し、最速の“かがやき”では金沢―東京間を2時間28分で到達し、従来の到達時間（約3時間50分）よりも約1時間22分短縮されることとなりました。開業により、大都市圏との鉄道による移動時間が短縮され、人々の交流が増え、経済波及などの効果が期待できるとされています。開業後約5ヶ月となりますが、期待された効果はでているのでしょうか。

一方、九州に目を転じれば、平成23年に九州新幹線が博多まで全線開業し、また、長崎新幹線は平成34年に開業する予定となっています。長崎新幹線は博多―長崎間（143km）を最速1時間20分で到達し、在来線の1時間48分に比べると22分短縮するとのこと。

長崎県では、「人、物、情報の交流が活発化し、社会、経済、文化活動の活性化をもたらす。遠くからの通勤、通学ができるなど居住圏域が広がり、一日の行動圏も広がる。」佐賀県では、「交流の輪が広がる。移動時間が短くなる。」などが開業の効果として期待されています。現在、佐世保線のある駅では、一時間に特急列車と普通列車がそれぞれ1本ずつ停車していますが、多額の資金を投入し新幹線を新設した後に、多くの経済的効果がでることを願っています。

昨年8月のOB通信で紹介しましたように、私は山口県や福岡県など九州各県の旧街道歩きをしています。雑誌やインターネットで街道のルートを調査し、地図を片手に歩いていますが、宅地造成や高速道路をはじめとする道路の新設、また私有地となったりして昔の道が消えている場所もあります。「萩往還」のように標識がしっかりしているわけではなく、旧街道の整備の取り組みにも予算の関係で、地方公共団体によって温度差があるようです。

街道の一つ旧豊前街道（松崎～南関～山鹿～植木～熊本）は、今の国道3号線のような役割を果たしていたとのこと。新しい道や郊外に大型ショッピングセンターができた影響により、かつて賑わっていた旧街道筋の宿場や商店街は、次第に時代の流れから取り残されていくことになりました。旧宿場の呉服屋、味噌・醤油屋、酒屋などは廃業に追い込まれ、人通りの多かった商店街はシャッター街となっています。歴史の生き証人として世界文化遺産などに登録され語り継がれるものはまだ良いとしても、消え去ってしまうものが大半だと思います。高速道路の新設や新幹線の開業などによって目的地到着までの時間は大幅に短縮され、利便性は大いに拡大していますが、便利さの代償として他に多くの何かを失っているような気がしてなりません。

さて、今年のOB総会は山口支部主催で、皆さまが学生時代を過ごされた思い出の地、山口市湯田温泉においておこなわれます。詳しくは6ページの「2015年総会開催のご案内」をご覧ください。

NHKの大河ドラマも新たな「花燃ゆ」がスタートしましたが、7月には「花燃ゆ」の舞台ともなった「松下村塾」などが、明治日本の産業革命遺産の23施設の一部として世界文化遺産に登録が決定しました。OB総会の参加に合わせて、その「萩市」や、参勤交代と幕末の志士も往来した「萩往還」、そして奇兵隊諸隊の宿跡などがある「赤間関街道中筋道」など、新しい出会いを求めご家族と一緒に訪ねてみてはいかがでしょうか。

下記参加者一覧のとおり、平成19年から昨年までのOB総会には、毎回多数の会員の皆さまが参加されています。OB総会では毎回各支部で趣向を凝らした取り組みがおこなわれていますので、会員の皆さまは会員でない皆さまもお誘いのうえ、是非参加くださるようご案内いたします。

開催年	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
引受支部	山口	九州	関西	東京	山口	九州	関西	東京
参加人員	86	51	47	41	117	63	59	44

次に、山口大学ワンダーフォーゲル部の動静についてご報告します。

前顧問の田中修平先生（農学部）の退官に伴い、4月より池田勇太先生（人文学部）に新しい顧問として就任していただくことになりました。先生のご紹介を兼ねて、「OB通信に寄せて」と題して寄稿し

ていただいておりますのでお読み願います。

現役部員については、今年度も12名(本学10名、工学部2名)の新入部員を迎え、新体制が発足し夏合宿に向けて活動を開始したとのことです。

6月16日現在、下記表のとおり本学33名(内女性6名)、工学部13名、合計46名の部員数となりました。今年も女性の入部がありませんでしたが、新顧問の先生をはじめ現役部員に対して、今後とも温かいご支援をお願いします。

学 年	合 計			本 学			工 学 部		
	男 性	女 性	計	男 性	女 性	計	男 性	女 性	計
1 年	12	0	12	10	0	10	2	0	2
2 年	15	0	15	10	0	10	5	0	5
3 年	7	2	9	5	2	7	2	0	2
4 年	6	4	10	2	4	6	4	0	4
合 計	40	6	46	27	6	33	13	0	13

鳳凰会では、1月より小林遼大君(人文学部)が事務局長として任務にあたることとなり、今年のOB会運営がスタートしました。会長、副会長、事務局長の3人で、OB会費管理、OB通信の事前準備から発送やOB総会の事前準備等をおこなっています。運営面で不行き届きな点が多々あり、皆さまにご迷惑をお掛けしていると思っておりますがご容赦願います。

これからまだまだ暑い日が続きますが、健康に留意してお過ごしください。山口でのOB総会では元気で会いましょう。沢山の参加をお待ちしています。

1 本部・支部連絡先

(本部)

OB会会長

武富 敏夫

(経済・昭和45年卒)

OB会副会長

(農・昭和47年卒)

OB会事務局長

小林 遼大

(東京支部)

支部長 城戸 賢嗣 (経済・昭和49年卒)

副支部長 高田 哲生 (工・昭和49年卒)

事務局長 秋山 高弘 (経済・昭和53年卒)

(関西支部)

支部長 池田 純 (工・昭和51年卒)

(山口支部)

支部長 池富士 清 (農・昭和47年卒)

本部 OB会副会長と同じ

(九州支部)

名誉支部長 永沼 嗣朗 (経済・昭和39年卒)

支部長 武富 敏夫 (経済・昭和45年卒)

本部 OB会会長と同じ

務局長 龍 純二 (文理・昭和50年卒)

2 会長及び事務局からOBの皆さまへ

(1) OB会費の納入について

会費有効年を経過して会費未納の場合は自然脱会となりますので、会費の支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。脱会になりますと、以後OB通信の発送等OB会からの連絡が途絶えることとなりますのでご注意願います。

会費有効年は、皆さまの宛名書きに記載していますが、今一度会費有効年を確認され、もし、相違している場合は、会長または事務局までお問い合わせ願います。

【OB会費の納入状況についての問い合わせ先】

会長 武富 敏夫

事務局長 小林 遼大

会費有効年に応じて、鳳翽会新規(再)加入のご案内、会費納入について(お願い)、お知らせ、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票を同封しています。新規(再)加入及び入会を継続される場合は、お手数ですが、同封の郵便局払込取扱票にて下記へ納入くださいますようお願いいたします。同封文書は次のようになっていますのでご確認ください。

- ア 新規加入の皆さま及びOB会費未納のため2013年までに会員資格を喪失された皆さま
鳳翽会新規(再)加入のご案内、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票
新規(再)加入を希望される場合は、郵便局振込とともに、入会申込書を送付いただくか、必要事項を会長または、事務局までメールにてご連絡ください。

【送付先】

郵便番号 753-0841 住所 山口県山口市吉田1677-1 山口大学体育会内
宛先 山口大学ワンダーフォーゲル部

- イ 会費有効年が2014年及び2015年の皆さま
会費納入について(お願い)、お知らせ、郵便局払込取扱票
口座記号番号 01530-0-16050
加入者 山口大学ワンダーフォーゲル部
個人会員年会費 2,000円 夫婦会員年会費 3,000円

※ 年会費は、複数年分を一括納入することもできます。一括納入の場合は振り込み金額を単年会費の複数年倍としてください。個人会員の場合、年会費を1,000円の端数で納入されないようお願いいたします。

新規または再度会費を納入される場合は、会費の有効年は納入年からとして取り扱わせていただきます。

(2) OB通信の送付について

OB通信は本来会員の皆さまだけに送付することになってはいますが、今回発行のものは住所を把握できているOBの皆さま全員に送付しています。ただし、脱会の方は除外しています。

(3) OB通信への寄稿について

事務局では、皆さまからのOB通信の寄稿を常時受け付けています。OB通信への掲載を希望される場合は、事務局まで原稿を提出ください。なお、OB通信の発行の準備の都合上、原稿の提出期限は次のとおりお願いします。

なお、OB通信の内容等についてご意見がありましたら、会長及び事務局長までお寄せください。

8月発行分	7月中旬
12月発行分	11月中旬

(4) 転居先連絡のお願いについて

OBの皆さまの住所確認については万全を期していますが、OB通信の発送の都度、数通が転居先不明で返送されてきます。その後、お知り合いの方に転居先を確認し再送していますが、OB通信の送付が遅れる原因になっています。

転勤等で住所を移転された場合は、速やかに会長及び事務局長まで連絡願います。

(5) 山口大学ワンダーフォーゲル部顧問の先生の交代について

平成24年度より、田中修平先生に山口大学ワンダーフォーゲル部の顧問をお願いしていましたが、退官にともない次の先生が、平成27年度より顧問になられましたのでお知らせいたします。

(新顧問) 池田勇太先生(人文学部)

(6) お詫び

昨年12月にお届けしましたOB通信の中では誤字・脱字が多数あり、皆さまに大変ご迷惑をお掛けしました。この場を借りて深くお詫びいたします。

今後こうしたミスが発生しないよう、校正には万全を期してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

3 平成27年鳳翔会総会案内

2015年8月吉日

山口大学ワンダーフォーゲル部OB会「鳳翔会」会員各位

山口支部長 池富士 清

2015年総会開催のご案内

拝啓 盛夏の候 OB会会員の皆様方には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
昨年総会でのご承認のとおり、2015年のOB総会は山口支部の担当で開催します。

既にご存じのとおり、今年是我々の母校である山口大学が創基200周年を迎えます。このような節目の年に山口で総会を開催できることに縁の深さを感じずにはおられません。我々が学生時代を謳歌しNHK大河ドラマ「花燃ゆ」の舞台となった山口の町、ワンゲル部員として大切にしたいフィールドである鳳翔山、そして学びの吉田本学キャンパスの今昔を感じて頂ければと、多くの関連企画をご用意しています。

特に山口ならではの懇親会として、現役部員の参加（スタンプ披露）や、学長のご出席も予定されています。

紅葉真っ盛りのこの時期、奮ってご参加の程お願い申し上げます。 敬具

※出欠連絡 同封のハガキを **9月20日（日）**までに投函ください。

なお、投函後、変更が生じた場合は、速やかに下の連絡先に連絡ください。宿泊のキャンセル料が生じた場合、料金負担をお願いすることになります。

総会2日前まで：newone@pat.hi-ho.ne.jp（坂田のメール）

総会前日・当日：tamura1.tamura2.tamura3@softbank.ne.jp（田村の携帯）

開催要領

- 開催日時 2015年11月7日（土）～8日（日）
受付開始 16:00、総会 17:00～17:30、懇親会 18:00～20:30
- 開催場所 「翠山荘」
〒753-0056 山口県山口市 湯田温泉 3丁目1-1 TEL 083-922-3838
- 参加費 ①懇親会参加費 9,000円
②宿泊費（申込時に選択してください。すべて朝食付です。）
「翠山荘（2～8人部屋）」6,300円
「セントコア山口（シングル）」9,500円
「セントコア山口（5人部屋）」7,500円
「プラザホテル寿（シングル）」7,200円
☆同室の希望や組み合わせがあれば、申込書にご記入ください。尚、ご希望に沿えない場合もありますのでご了承願います。
- トレッキング&ウォーキングプラン&山口大学施設見学
(A、Bプランは7日、8日両日実施します。Cプランは7日のみ実施します。)

Aプラン：東鳳翔山トレッキング(ニツ堂往復コース、5時間)

懐かしい東鳳翔山に定番コースから登ります。新日本百名山にも選ばれた山頂からの絶景をお楽しみいただくとともに、コース途中の変貌振りにもご注目下さい。

- 集合場所時刻： 11/7 山口駅 10:00
11/8 「翠山荘」ロビー 08:00（解散：山口駅 14時）
- 携帯品： 水・お弁当（各人で用意）

- ・備考： プラン内での移動および、荷物の預かりは実行委員で行います。雨天時の実施・未実施の決定は実行委員会が行います。

Bプラン： 維新策源地ウォーク(山口市内ウォーク、3時間)

知っているようで知らない歴史の街・山口を語り部の歴史ガイドを聞きながら歩きます。見所は大河ドラマ「花燃ゆ」ゆかりの地などなど。平地のウォークです。詳細は同封のパンフをご覧ください。

- ・集合場所時刻： 11/7 山口駅 12:30 (食事を済ませて集合)
11/8 「翠山荘」ロビー08:00 (解散：山口駅 11時)
- ・備考： プラン内での移動および、荷物の預かりは実行委員で行います。少雨決行しますが、当日、辞退されてもかまいません。

※ A,Bプランとも、自家用車で参加される方は移動・荷物搬送にご協力下さい。お申込ハガキに、「移動・搬送協力可」とご記入下さい。

Cプラン： 山口大学本部施設見学(吉田キャンパスの大学による案内、2時間)

山口大学はOBの方や関係者の方々に、山口大学の今日の活動と施設を案内しています。今年は山口大学創基200周年を迎える節目の年となりましたが、母校と部室の今昔に思いを馳せてはいかがでしょうか。7日は土曜日ですが特別に案内をしていただくことが出来ますので、ふるってご参加ください。

- ・集合場所時刻： 11/7 「翠山荘」ロビー 13:00
- ・備考： 移動手段については応募人数により検討します。

【補足の案内】

1. 「翠山荘」、「セントコア山口」、「プラザホテル寿」の位置



2. 策源地の説明

策源地とは、「前線の戦闘部隊に必要な物資を供給する後方基地」という意味です。1863年、萩から藩庁が移鎮してきた山口には、政事堂や藩の教育機関などとともに、多くの志士たちが各地から集まり、抗幕に向けて密議を交わし、力をつけていきました。そのことから、山口は明治維新を支え

た「策源地」と言われるようになりました。

3. 2次会について

2次会は、湯田温泉の飲み屋でお楽しみください。候補の飲み屋は、総会当日の資料で案内します。

4 顧問挨拶

(1) OB 通信に寄せて

人文学部准教授 池田 勇太

今年度より、田中秀平先生に替りましてワンダーフォーゲル部の顧問をつとめることになりました。未熟者ですがどうぞよろしくお願いいたします。

私は昭和 53 年生まれですので 50 年以上の歴史をもつワンダーフォーゲル部よりずっと年少になります。出身は東京都の西多摩郡で、東京とはいっても多摩川がようやく関東平野に出ようという場所で、奥多摩の山並みがいつも近くにありました。高校時代は山岳部に所属し、大学時代は中央大学でローゼンベルク山の会というサークルに所属していました。いずれも冬山はやらず、夏山縦走を基本とする活動でした。

大学院から東京大学に移り、その後は山から遠ざかっていたのですが、いまでも山道や坂道を見ると自然とやる気が湧いてくるのは習性なのかもしれません。大学院を修了したあと、長野県南部の飯田市歴史研究所という研究所に勤めました。飯田は中央アルプスと南アルプスに挟まれた伊那谷の中心都市で、南アルプスの眺望がよく、春先には残雪に白く輝く山並みが、仙丈岳から赤石くらいまで見える美しい土地でした。平成 24 年の 10 月から山口大学人文学部に赴任し、現在は日本近現代史を担当しています。なお、専門は明治維新史です。

学生時代に登った山はすべて東日本の山になります。奥多摩・奥秩父・丹沢・谷川・那須などの近隣から、ハヶ岳・南アルプス・中央アルプス・北アルプス・妙高などの長野県方面の山に多く登りました。東北では飯豊山に登ったことがありますが、植生が関東や中部とだいぶ違い、その稜線のおだやかな美しさが印象に残っています。どの山行も、とても楽しかったですし、あの時代の経験がいまの自分を作っているのだと感じます。

そういうわけで、ワンダーフォーゲル部の皆さんにも是非多くの山に登って、素晴らしい体験を重ねてほしいと願っています。山が嫌いな人はよく「登ったのに降りるなんて…」と山登りを誹謗しますが、山を歩くことによって得られる人生の豊かさは、否定しようもないことと私は思います。くれぐれも事故やけがないように気をつけて、いい山旅を続けていただきたいと思います。

5 各支部活動状況（平成 26 年 12 月～平成 27 年 7 月）

(1) 東京支部

① 新年会

2月14日(土) 17:30~20:00

場所：福の鳥 日本橋店

参加者：25名

三浦、大谷、野村、小田、弟子丸、乙咩、
佐々木、小林、守沖、堀、原、石津、
銭広、原口、宮原、福永、熊谷、松沢、
村上、高田、真島、木村夫妻、松永、秋山

少し遅くなりましたが、新年会兼総会の打ち
上げを開催しました。25名もの大勢の会とな
りました。会場の「福の鳥」は山口の食材を使っ
た料理を出してくれるお店。

山口の地酒とともに、大いに話も弾みました。



② 夏の日帰り登山および懇親会

6月13日(土)

登った山：奥多摩・・・惣岳山(756米)、
岩茸石山(793米)

懇親会：澤の井酒造 澤乃井園

参加者：17名

小関、原、村上、佐々木夫妻、堀夫妻、福永、
原口、熊谷、木村夫妻、恵谷、高田、松永、
城戸、秋山

(コースタイム)

御嶽駅 9:20—惣岳山 11:18—岩茸石山 12:00

(昼食) 12:47—澤井酒造 澤乃井園 15:10—

沢井駅にて解散 16:20

前日までの雨で、少し道は滑りましたが、好天
に恵まれ、新緑の登山を満喫しました。

樹林帯が、強い日差しを遮り、鞍部ではそよ風
が心地良く感じられました。

岩茸石山山頂で昼食をとり、青梅線沢井駅へ下
山。駅のすぐ近くにある、清酒澤の井で有名な澤
井酒造の経営するガーデンにて、打ち上げを行
いました。



(2) 関西支部

支部長 池田 純



(実施済み)

・2月6日(金) 7:00より懇親会(遅めの新年会)

参加者は下の表に示しております。

参加者	卒部年度	
上田 功	1973	経済
池富士 芳雄	1974	工
伊藤 浩二	1975	経済
金子 龍太郎	1975	文理
尾儀 一郎	1975	工
古賀 利幸	1976	工
池田 純	1976	工
秋山 泰寛	1977	工
田村 浩三	1978	文理
森 裕子	1978	文理

場所は、定例ですが大阪淀屋橋のグリル小松屋です。この小松屋さんには10年来お世話になっています。そろそろ世代交代ということで外国で修業された息子さん(2代目?)がお手伝いされてました。

古くて洗い店だったのですが、このたびその辺もあり改築されました。

懇親会の話ですが、やはり支部メンバーにいかにか若手または新人をいれるかでした。やはり山口県あるいはその近隣の出身者が関西に居を構えるというのはなかなか少ないようです。

OB会員の方で、関西に異動になったとか就職したとかいう方がおられたらぜひ一報ください。
関西支部 支部長 メールアドレス: kiyoshi2660@ac-koka.jp

(3) 山口支部

支部長 池富士 清

- ① 現役追いコン激励 1月16日 湯田温泉「お花茶屋」 8名参加
現役部員の追いコン激励は、山口支部の恒例行事となりました。
今年は卒部生が13名と、近年になく多く、また、現役生の増加もあり。大変にぎやかな会となりました。
- ② 支部交流会
第1回 2月21日 山口市小郡 YIC及び居酒屋「呑ん太」 14名参加
27年総会引き受けに関し、準備計画、役割分担等を決定するとともに、懇親を深めた。
第2回 7月18日 山口市神田町 海鮮うまいもん屋「一善」 13名参加
総会引き受け内容決定及び協力要請を行うとともに、懇親を深めた。
- ③ 総会引き受け準備活動
田村伊正準備委員会委員長の下、準備委員会3回開催するとともに、会場、トレッキング等各担当チームが随時活動し、11月の総会に向け、鋭意取り組んでいますのでご期待下さい。

(4) 九州支部

支部長 武富 敏夫

- ◎ H26.12.05 忘年登山及びデーキャンプ 叶岳・今宿野外センター 参加人員 7名
叶岳(341m)に登り、周回して今宿野外センターへ向かう。同センターの炊事場で、「堀ちゃ

ん牧場」で購入した糸島牛などでバーベキューを行う。

- ◎ H27.01.31 新年会 博多つつじ庵 参加人員 10名
◎ H27.02.14 日帰り山行 可也山・梅観賞 参加人員 3名

・ (コースタイム)

師吉バス停 9:55 → 石切り場跡 10:28 → 可也山山頂 11:08 → 展望台 11:12
11:40 → 小富士ルート分岐 11:50 → 小富士梅林 12:25

・ (概況)

可也山は標高 365m、北側から眺めると富士山に似ているため、1 年山とか糸島富士と呼ばれている。二三日前の冷蔵庫の中にいるような寒さから、一転して絶好の山行日和となった。前原駅や師吉バス停には多くの登山者で賑わっている。石切り場まで約 40 分の行程。この石切り場から日光東照宮や桜井神社(福岡県糸島市)の鳥居の石を切り出したというから驚きだ。どのようにして日光まで運んだのだろうか、当時の苦労に思いを馳せる。可也神社付近でアナログ放送のケーブルを撤去している作業を見かける。展望台では数多くの登山者が眺望を楽しんでいる。糸島半島、福岡市街、能古島、志賀島をはじめ、はるか壱岐の島まで手が届くようで贅沢な景色だ。早々に昼食を終え、小富士梅林まで急坂を一気に下る。梅は二分咲き程度であるがこれで十分だ。メジロが無心に花の蜜を吸っている姿が微笑ましい。帰りのバスの中からカモメがゆったりと飛んでいる姿を見てふと安堵感を覚えた。

- ◎ H27.03.28 日帰りウォーク 秋月街道と秋月散策 参加人員 6名

・ (コースタイム)

大カ 10:15 → 八丁峠入口 10:34 → 蛇淵 11:04 → おおよこい茶屋跡 11:48
12:15 → 古八丁峠頂上 12:26 → だんご庵 13:13 13:28 → 秋月 13:50

・ (概況)

秋月街道は小倉から田川を通り、八丁峠を越えて松崎へ、そして豊前街道となり南関、山鹿から熊本に至るルートである。今回はその一部の旧八丁越えと秋月の町の散策である。旧八丁越えには石畳と観音様などがところどころに見られ、江戸時代の面影を残している。街道といっても旧八丁峠は標高約 520m であり、ちょっとした低山よりも高い位置にある。石畳を踏みしめ高度を稼ぎながら、「おおよこいの茶屋跡」で昼食。そこはかなりの広場で休憩にはもってこいの場所である。古八丁峠頂上を後にして「だんご庵」をとおり秋月の町へ向かう。花見時とあって「杉の馬場」は大勢の観光客でごったがえしている。我々は喧騒を避けて黒田家菩提寺の「古心寺」をはじめ、観光客が少ないところを見学する。最後はやはり、秋月の名所「杉の馬場」の黒門などの見学だ。秋月バス停からそれぞれ帰路についた。

- ◎ H27.04.25 懇親会 大名つつじ庵 参加人員 9名

- ◎ H27.05.09 日帰り山行 獵師岩山・シャクナゲ観賞 参加人員 6名

・ (コースタイム)

小爪峠登山口 10:30 → 小爪峠 11:05 → 獵師岩山 11:30 → 鬼ヶ鼻岩 12:10
12:50 → 獵師岩山 13:35 → 小爪峠 13:55 → 小爪峠登山口 14:15

・ (概況)

この季節の天気の変り変わりはめまぐるしく、好天と予想されていた天気が午前中は小雨となったが、午後からの天気回復を期待して決行した。そのため当初予定していたルートから楽ちんコースへ変更。昨年同様ツクシシャクナゲの開花はほとんどなく、見つけるのがやっとという状態。鬼ヶ鼻岩へ到着する頃には天気も回復し、眼下に広がる景色と背振山を見ながら昼食。元来た道を引き返し小爪峠登山口へ。今日も天候に恵まれて本当に良かった。

- ◎ H27.07.25 懇親会 博多つつじ庵 参加人員 9名

6 会員近況

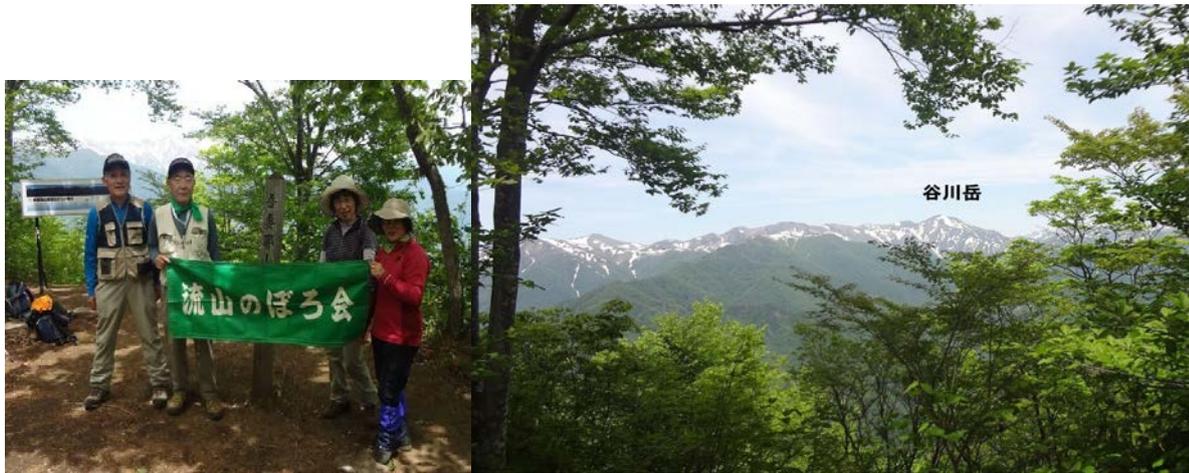
(1)「流山のぼろ会」での山行記

東京支部 昭和44年卒 工 弓削 哲也

地元 千葉県流山市の 流山のぼろ会（中高年の登山倶楽部）に所属し、山を楽しんでいます。
最近、会のメンバーと登った山を紹介します。

大峰山（1,255m）・吾妻耶山（1,341m） 5月23日（土） 晴れ

参加者： 伊藤（藤）、小原、弓削（美）、弓削（哲） 計4名



南流山 6：03 発の電車に乗り、大宮駅で東武線経由の伊藤さんと合流する。大宮 7：02 発のたにがわ 401 号に各人が準備した座席に乗り、7：53 定刻に上毛高原駅に到着。予約したタクシーで約 20 分、大峰沼登山口着。

軽い準備体操とヒル・虫対策を施し、8：30 登山開始。とても美しく、気持ちが良い森の中の広いなだらかな遊歩道を歩く。しばらくすると 10mほど離れた森の中で不思議そうな顔をして我々を眺めているニホンカモシカに遭遇する。我々を歓迎してくれているのか、迷惑がっているのか？

9：00 大峰沼湖畔のキャンプ場に到着。このキャンプ場は今では廃止になっており、ベンチやトイレが相当に荒れていた。日本最大の浮島がある大峰沼を半周したところから大沼越へブナ林の中の急坂をぐんぐん登り、9：25 大沼越に到着。ここから尾根伝いの縦走だ。やせ尾根の岩峰を長い鉄製の梯子を登り・下りしていくつか越えると尾根は広くなり、テレビ中継所・電波中継所・展望台などをすぎると 10：30 平らな登山道に突然「大峰山頂」の立て札が立っていた。まわりは灌木で見晴しは全くきかない。とりあえず記念写真を撮って先を急ぐ。通信設備の横を通り、尾根を下っていくと 4 本の道が合わさる赤谷越峠に着く。尾根道を直進して登るとジグザグの急登になり、11：50 吾妻耶山山頂に到着。今までほとんど登山者に合わなかったが、山頂には 10 人弱の先客がいた。

山頂は木々に囲まれているが、ところどころ開けた箇所があり、目の前に平標山・仙ノ倉山・万太郎山・谷川岳の谷川岳主脈（今年 7 月に縦走予定）が連なっており、遠くに平ヶ岳・至仏山・武尊山が眺めることが出来た。いずれも残雪をかぶった素晴らしい眺めだった。

記念写真撮影後昼食をとり、12：30 下山開始。山頂直下の急坂を下り、スキー場のグレンデを一部通り抜け、貯水池の所からまた森の中に入り、13：50 大峰沼キャンプ場に到着。ここからは朝歩いた道を下り 14：20 大峰沼登山口に到着。予約したタクシーで上毛高原駅迄行き、15：09 発の新幹線で帰途につく。天気が良く、少人数だったこともあり、和気あいあいとした楽しい山行でした。

(2) 屋久島・杉巡りハイキング

東京支部 昭和47年卒 工 三浦 静止

少し古新聞になりましたが、昨年4月に屋久島に行きましたので報告します。屋久島は現役時代に3回登り、色々と思い出の多い所です。今回は、妻のたったの願いである「縄文杉と、もののけの森を見たい！」を実現するのが目的なので、宮之浦岳登頂は初めから対象外でした。体力的にも我々夫婦には日帰りは無理ですし。

4月12日(土)

前日から羽田に泊まり、朝便の飛行機で移動、レンタカーを借りる。雨のためドライブとする。宿泊する安房から西へ、島の南側半分を回り、大川の滝・千尋の滝・トロキの滝などを巡りながらお土産屋さんを覗いて回った。宿は、魚好きにはたまらない食事であい。但し、3階へ行くのにエレベーターは無し。「山に登る人には不要でしょ」とのこと。

4月13日(日)

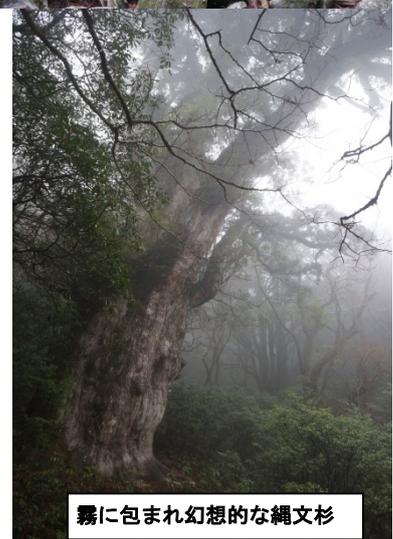
まだ雨。午前中は屋久杉自然館を見学。妻は職業柄、こういう所で得られる知識に興味があるようで、じっくり見る。午後からは最も行程が楽な「屋久杉ランド」を、足慣らしがてら、カッパを着てハイキング。ここは観光客用に、2時間程度で見られるように整備されているが、結構な屋久杉が見られる。現役の時には鳴き声しか聞けなかった屋久鹿が、人を恐れず近づいても逃げない。

4月14日(月)

雨がやむ予報に期待して、縄文杉へ行くことにして早起きしたが、かなりの雨。一番バスは朝寝坊の我々夫婦には早すぎるので、二番バス(5:20)に乗る。夏や連休は大混雑との事だったが、4月の平日なので、たいした人ではない。荒川登山口に着いたが(6:00)雨は変わらない。バスターミナルで立ったまま朝食を食べ、悪名高いトロッコ道を歩き始める(6:15)。妻のロードは私よりかなり遅い。修学旅行の元気の良い女子中学生の団に何度か抜かれる。小杉谷、楠川分かれを過ぎ大株歩道入口に着く(10:00)。ここでトロッコ道は終わり。ここのトイレが大変で、さっきの女子中学生達が先に来ていたので、女子の方が長蛇の列。さすがにペースはコースタイムよりかなり遅い(二人とも写真を撮るのも影響)し、トイレでも時間がかかるので、ここで、最悪引き返す時間を13時に決めた。最終バス(18:00)に間に合わないと、タクシーを呼ぶのに、登山口から4km下りた、荒川分かれまで行かないと公衆電話が無い。世界遺産の中のハイキング道でありながら、携帯電話は、下界を見通せる場所なら通じるが、谷に下りてしまうと、ほとんど圏外。これからは登りになり、妻と私のペースは、ほぼ一致する。途中で腹が減り昼食を食べる。ウィルソン株・大王杉・夫婦杉を経て縄文杉に到着(12:30)! 十分、間に合った。大王杉は木のそばまで行けるが、縄文杉は遠く離れた見晴台からしか見られない。雨は昼食の頃にやんだが、高度が上がって霧になった。写真としては残念だが「霧に包まれた縄文杉も幻想的で良い」と言い聞かせて帰途につく。帰りは全く同じ道を引き返す。小杉谷へ戻った頃、時間が結構厳しいことに気が付いた。妻のペースが登りの時より落ちている。やはり疲れが出てきているようだ。いざとなったら私だけ早足で下り、バスに「ちょっとだけ待って!」をすることも考えた。妻に「バスに遅れたらタクシー呼ぶのが大変だ! 高くつくぞ!」などとハッパを掛けながら頑張る。妻のペースが少し上がったように思う。間に合った(17:45)! 十分トイレに行く時間もある。全行程11時間30分。私は一応、昔ワンダラーだが、妻はそんなに登山経験は多くない。よく頑張ったと思う。「縄文杉を見たい!」



ウィルソン株は苔がふえたような・・・



霧に包まれ幻想的な縄文杉

の執念が相当強かったのだろう。

4月15日（火）

この日は安房港から朝一の高速船（ジェットホイル）で種子島へ。まずは港の近くで「鉄砲館」や「月窓亭」を見学し、鉄砲鍛冶の子孫が手作りした「はさみ」を買った。もう手作りしている人は少なくなっただけ。工学部の人は理解できると思うが、鉄砲が伝来した後、種子島で作るのに最も苦労したのは「ネジ」です。銃身の後ろを塞ぐ「ネジ」。これが上手くできなくて事故も多かったらしい。景色を楽しみながらドライブし、宇宙センターへ。ここでは予約しておいた「案内付きツアー」に参加。センター内部を説明付きで見せてくれる。帰りの夕方便の高速船からは、屋久島の向こうに沈む夕日が拝めた。ただ、高速船は飛行機と同じでベルト着用が原則なので写真は窓越しとなる。

4月16日（水）

帰る日だが飛行機は夕方便なので、午前中に「もののけの森」へ行く。ここは小杉谷から楠川へ下るルートの途中なので、現役時代に二度も通ったことがあるのだが、全く覚えがない。今は「白谷雲水峡」という名前が付いており、宮之浦から車で入れる。駐車場から「もののけの森」までは1時間30分位。妻はここでポーとしていたいと言うので、私は辻峠まで足を伸ばし太鼓岩に登る。今回は杉ばかりを眺めてきたが、初めて宮之浦岳を見ることができた。遠望ではあるが、素晴らしい景色だ。



これで予定の全行程を終わり、宮之浦で昼食を食べ、港をぶらついて、レンタカーを返しに行く。あとは飛行機で帰るだけ。

現役の時に来てから、もうすぐ半世紀が経とうとしている時の、屋久島との再会でした。昔は未舗装のバス道路が島を一周していただけでしたが、今は交通機関でかなりの所までアプローチできるので、健脚の人なら、日帰りで宮之浦岳登頂が可能です。縄文杉は昭和41年に発見され翌年に紹介されていますので、現役時代に登った昭和44年～46年頃には道も整備されていたと思いますが、当時の写真には大王杉とウィルソン株しか写っていません。意識していれば見つけられたのかもしれませんが。交通も、当時は錦江湾を出た途端にひどく揺れだし、船酔いでふらふらになりながら行ったものですが、今はあっという間に飛行機で飛んでいけます。今年は福永さんが行かれたので、宮之浦岳登頂記に期待しています。



（3）ときどき山登り

関西支部 S49年卒 工 池富士 芳雄

9年前の正月明け、54歳の時「大型バイク免許取得」を決断しました。残りの人生でやりたい事の内、年齢的にリミットであると判断したからです。若かりし頃、映画「イーजीライダー」に憧れた事もありますが、学生時代はお金も無かったので原チャでそのつもりになっていました。

その後、就職、結婚、子供が誕生。その子供たちに手が掛からなくなった、正確には経済的に手が掛からなくなった。危険を伴うバイクだから、周囲に責任のある期間は封印していましたが、そろそ

ろ良い頃だろう。今やっておかないと。一大決心をして家内に相談すると、いとも簡単に「ええんとちゃう」と返ってきて、心配されないことが逆に空しくも思われました。

免許取得後ですが、「後ろに乗るか？」と尋ねると「乗る!!!」と。そして、「私の人生にバイクに乗るといふ絵は無かったなー」と。こういった経緯で現在まで、東北5県、甲信越3県、北陸3県、東海3県、近畿6県、中四国6県で約45,000kmを走り抜きました。

目的は観光ですが、他に巨樹巨木巡り、現存12天守巡りなども合わせて行い、温泉も必ず入れています。これまでに会った巨樹巨木は176本、樹齢の合計は14万年に届こうとしています。12天守巡りも残すは2天守となっています。そんなツーリングの途中で簡単に登れそうな百名山があれば、ちょっとだけ山登りをします。

今回は足を踏み込んでいなかった九州へ3月21日に出発。大阪→(フェリ)→志布志→鹿児島→開聞岳→指宿→霧島高千穂の峰→椎葉村→五ヶ瀬町→高千穂町→阿蘇山→九重高原→岡城跡→大分→(フェリ)→神戸 船中2泊を含み8泊9日 走行距離は1,212kmでした。この時期、有ろう事か全工程全て晴天に恵まれ、ツーリングを満喫できました。

桜島では10分間隔で噴煙が上がり、ドカーンという爆発音も聞こえていました。去年の御嶽山噴火の後だけに怖さが湧き上がりました。僅かですが火山灰を被るということがどういうことなのか体験できました。メリットも有るのですが私には住みたいとは思えません。

今回は開聞岳と高千穂の峰に登ってきました。開聞岳からは薄っすらと屋久島、種子島が見えていました。

開聞岳の疲れは指宿の砂むしで癒しましたが、流石に高千穂の峰の小砂利の登りは疲れしました。新燃岳の近くの新湯温泉でつま先を癒しましたが、楽なバイク生活の付けが回ってきたようです。



開聞岳と菜の花畑



高千穂の峰

椎葉村の国道265号、標高1050mの飯干峠越えで、道幅が狭くカーブの連続で脳みそがぐちゃぐちゃになりましたが、高千穂で神のご加護を受け修復できました。

竹田市の岡城跡からは傾山、祖母山、阿蘇山、九重山が周囲に見えていました。嘗てこの辺りを歩いた事が懐かしく思い出されました。

1972年(?)の春合宿で筋湯から高森まで同行した平治号(秋田犬)は長者原で銅像となって迎えてくれました。本当にあった事だと思いました。 体力を整えて次は北海道へ。

(4) 十種ヶ峰に登りませんか？

山口支部 平成26年卒 農 川地 翔子

初めての寄稿となります、H26 卒の川地です。「ぜひ一筆！」と思いがけず白羽の矢が立ちましたの

で、頭を悩ませながらもパチパチとキーボードを叩いています。何を話題にするか迷いましたが・・・やはりここはせっかくなので山の話をして！ということで、ここ数年で大好きな山の一つになった十種ヶ峰について少しご紹介させていただきます。

十種ヶ峰は、ご存じのとおり山口市阿東に堂々とそびえ立つ標高989mの山です。青少年自然の家や山口県唯一のスキー場があることでも有名ですね。さらに十種ヶ峰をよく知る方になると、山の中腹にヤマシャクヤクが自生していることや頂上付近の熊野神社の傍ではカスミサンショウウオの目撃情報があることもなどもご存じでしょう。そんな魅力あふれる十種ヶ峰にアプローチするには、『福谷池ルート』や『嘉年ルート』などがありますが、中でもオススメは『神角ルート』です！ヤマシャクヤクを堪能できるのはこの神角ルートのみです。花期であるGW前後にはヤマシャクヤクを一目見ようと多くの登山客が訪れます。白い綺麗なヤマシャクヤクが群生している中を歩くのはまさに“爽快”です！今年はGWより少し前の開花となりましたが、例年どおり綺麗な花を咲かせてくれました(右写真)。



写真. 十種ヶ峰のヤマシャクヤク

さて、ここで少し私と十種ヶ峰の関係についてお話しさせて下さい。私が十種ヶ峰に思いを寄せるようになったきっかけは、大学時代に十種ヶ峰の麓にある神角集落で農業体験をしたことです。季節ごとに移りゆく雄大な十種ヶ峰を眺めながら、集落の方々と交流を重ねていくうちに、神角集落のみならず十種ヶ峰も私の中で他の山とは違う特別な意味を持つ山となりました。

そんな十種ヶ峰と神角集落ですが、[H26.7.28](#)に起きた豪雨災害により甚大な被害を受けてしまいました。十種ヶ峰から神角集落へ向けて土砂崩れが起き、登山道は一部を絶たれ、集落内には多くの土砂が流れ込みました。私が神角集落を訪れたのは、災害の数日後でしたが、その時目にした光景は忘れられません。否応なしに、自然の恐ろしさと人の無力さを痛感させられました。そんな中、集落内で怪我人ひとり出なかったことは本当に嬉しいことでした。さらには集落の方々からは次々に前向きな言葉が発され、何度も元気を貰いました。

豪雨災害から約2年。今でも、注意深く見ると、集落の河川には浚渫できず残ったままの土砂があり、登山道では土砂崩れの痕跡が各所で見られます。山間に設けられた砂防ダムは、土砂がいっぱいに溜まりその役目を終えています。それでも、集落には以前のような穏やかな時間が流れています。被災した登山道は、県内の山岳会や周囲の協力により新たな神角ルートとして生まれ変わりました。登山口も、地元の方々を中心に駐車場の整備や案内看板の設置が進められ、登山者としてはとても利用しやすい場所となっています。これも、神角集落の方々の十種ヶ峰への深い愛情と、十種ヶ峰の魅力を知る多くの人の尽力があったからこそです。皆さんも是非、一度こんな十種ヶ峰に足を運んでみて下さい。そして、その時は登山を楽しむと同時に自然の美しさと恐ろしさ、人の努力で築き上げてきたものを少しでも感じていただけたらなと思います。

(5) 卒業以来の近況報告

九州支部 昭和59年卒 経済 光山 史苗

私がワングルに入部したのは35年前のことです。特に山に興味があったわけではなく、ハイキング感覚で自然と触れ合えると思ってでした。数日後に、新歓登山で東鳳山に登りました。そのときに、テントで、夜通し飲み、歌い、騒ぐ酔っ払いたちを見て、これは私には無理な世界と思ったものです。でもその後、無理と思った世界もいつしか楽しくなり、ワングルでたくさんの人と出会い、自然に触れ、日常とはかけ離れた貴重な経験ができました。今思えば、その経験は、少なからず社会人・子育てに役

立っていると思います。

卒業後は、地元福岡で就職して6年間社会人を経験しました。その後、転勤族の旦那と結婚して、全国あちこち移動しました。転勤の辞令が突然10日前に出て、あっという間に引っ越しの繰り返しでした。そのたびに人間関係のスタートでした。新しい土地で新しい出会いが楽しい反面、慣れるのも大変で子供と苦労しました。



現在は8年ほど前から福岡に定住しました。子供もほぼ手が離れ、10年前から始めたテニスを週3回するのが楽しみです。錦織君のテニスとは全く別のものですが、テニスというよりは健康維持、ストレス発散、仲間とおしゃべりやランチがメインです。日焼けで真っ黒でしみだらけですが、それでも日焼け防止のマスクにサングラス、長そで長ズボンとささやかな抵抗をしています。はためにはとても怪しい人で誰かわから

ない状態です。今の私の1番宝満山にて しないよう、長く楽しく続けたいと思います。結婚以来、あちこち引っ越しばかりで山口大学やワングルとは全く無縁の私でした。そんな私ですが、数年前に、先輩から声をかけてもらい、ワングルの人たちと卒業以来でお会いするという機会がありました。あまりに久しぶりで、恐る恐る行きましたが、記憶とは不思議なもので学生時代が一瞬でよみがえってきました。みんなそれぞれ違った環境で年を重ねて、おじさんおばさんになっても、それでも昔と変わらないワングル仲間で、とても楽しい大切な時間を持つてました。改めて大学時代ワングルでよかったなと思えるひと時でした。その後、たまにワングルの集まりがあるときに行かせてもらっては、その時だけ

だけは気持ちだけ若返ってます。

そのせいか、山にも登りたくなり、30年ぶりに近くの宝満山に登りました。去年はミヤマキリシマの時期に久住の平治岳にも登りました。山の斜面に咲き誇る一面ピンクのカーペットを見て、感激しました。たまに山も行きたいと思うこの頃です。

昨年、同期の前田君に九州支部の懇親会に誘われ、大先輩ばかりで躊躇しましたが、思い切って参加しました。時代の違いはあっても、山口で、ワングルで、同じ経験をしているというだけで、会話も盛り上がり、皆さん大酒

飲みですが、優しく受け、久住 平治岳にて にも楽しく過ごさせていただいています。

私は25年以上山口の地を訪れてません。山口変わったよ〜と会う人に聞くけど、ぴんときません。機会があればそのうち学生時代の思い出の地へ行きたいと思います。



7 同期会だより

(1) 昭和45年卒同期会山散歩報告 「萩往還歩きと一の坂川ホテル観賞」

還暦を過ぎてから始まった、今回で6回目の昭和45年卒同期会山散歩。

今年はNHK大河ドラマ「花燃ゆ」にも刺激され、萩往還の旧街道歩きを計画した。同時に昔お世話になった惣野旅館に泊まり、一の坂川のホタルを観賞する計画である。

ホタル乱舞の時期に合わせて、例年より1週間ほど遅らせた6月5日～6日に行った。参加者は同期会メンバー20名中10名参加。萩往還歩きは、乙咩君、武富君、熊谷君、野村君、戸村君、黒小さん、妹尾さんと藤原の8名。(河内君は急用で欠席、代わりに戸村君が東京から車で来て、山陰大山と蒜山を踏破しての参加)

5日昼に萩往還の宿場町である萩から18kmの佐々並市に東京、姫路、広島、福岡から意気揚々と集合したが、二日前から梅雨入りしており、あいにくの雨。

臨機応変に一日目と二目の予定を変更して、まずは伊藤博文が好物であった名物の佐々並豆腐を食べた後、殿様が休憩された御茶屋跡や維新の志士たちが休泊した佐々並市の町並みと史跡を散策した。山口市に向かう道中では板堂峠国境の碑(長門と周防の国境)など萩往還の史跡を鑑賞しながら、常栄寺雪舟庭を散策した。卒業以来50年ぶりの雪舟庭の悠然さに心が洗われるとともに、上方の池にはモリアオガエルの袋状の卵塊が高い木の枝に多数見られて感動した。ここはモリアオガエルの生育地の西限らしいが、あの高い枝にどのようにして登ったのか?感動しかり。つづいて熊谷君が昔の下宿を探すというので、近くの瑠璃光寺の五重塔を散策、昔本堂で合宿したのが、いまでは信じられない。

夜は惣野旅館で遅れてきた久保君、中洲君も加わり、津森さん(昭和43年卒)のいとこのおかみさんの大盤振る舞いのすき焼きで宴会も盛り上がる。

萩の地酒(東洋美人)の美酒に酔いながら、雨も上がった一の坂川のホタルを観賞。(少し盛りが過ぎていたのと朝からの雨で乱舞とまではいかず)

二日目は天候も回復し、再度萩往還を佐々並市と明木の間地点近くの新切(ちょうのきり)バス停から五文蔵峠(一升谷最高地点)を経て3kmで標高差300mの急坂を下り、一升谷入口の明木乳母の茶屋までの4km強の歩きである。

幅4mの石畳の急坂をカジカガエルの鳴き声とうぐいすの合唱を聞きながらの歩きであったが、振り返ると登りは一升の炒り豆を食べ終わるといふ名前のいわれがわかる坂道である。再び山口市に戻り、湯田温泉で昼食を食べて解散した。いつもながら武富君には、現地の下見も含め何から何まで行き届いた手配をしてもらい、われわれはついて行くだけであった。今年は参加者も半数であったが、来年は「信州駒ヶ根」での全員での再会を約束して、元気をもらった同期会を終了した。



8 ワンゲル今昔(松本ぼんぼんから山口ボンボンへ)

(1) 松本ぼんぼんの思い出

昭和57年夏合宿、北アルプスを縦走し終えた私は、松本駅で他のパーティの仲間たちと合流した。その頃、現地本部に夏合宿の全パーティが集合することになっていた。現地本部での集合までの数日、私たちは松本駅の待合室等で寝起きしていた。私にとっては、初めてのアルプスであり、松本だった。

その時、先輩方が松本ぼんぼんに山大ワングル部で参加申込をされていた。今回、改めて調べてみると、松本ぼんぼんは昭和50年から始まった信州最大の祭りだと判った。当時まだ、10年にもならない祭りであったので、山口から来た学生グループの参加にも寛容だったのかもしれない。とは言っても、同時から多くの「連」が参加していた。祭りが近づくと町中いたるところで松本ぼんぼんの曲が流れ、踊られていた。本番前に伊勢町通りの商店街で練習をかねて参加する仲間たちと踊った。踊った後、商店街の人と交流をかねた宴会がレコード店前のアーケードの下で行われた。つまみは、もろきゅう等の手作りの品で初めて食べたもろきゅうのみずみずしさともろみの美味しさが忘れられない。商店街のお世話の方に秋本奈緒美（当時歌手）の父親がおられ、より盛り上がったのを思い出す。今回調べてみるとこのアーケードは、90年代に撤去され、道路も拡幅し近代的な商店街になっているようである。

「松本ぼんぼん」当日は、全員ワングルのユニフォームで参加した。松本ぼんぼんの楽曲は4コーラスで3分ほどであるが、祭りではメインコーラスが継ぎ目無くループして、約30分くらいで一区切りだったと思う。途中に5分から10分の休憩が挟まれ、市内を踊って回った。当時は、いたるところでお酒が振舞われ、祭りの高揚感と酔った勢いで汗だくになりながら、踊ったことを思い出す。町の人から声をかけられ、一生懸命踊った。

この祭りは、踊りコンクールでもあり、最後に表彰される連が市役所前であるが、その年、我が山大ワングル部の連は特別賞をもらったと記憶している。祭りが終わり、賞状をもらって、また、市役所前で祝宴となった。

あの暑かった夏の日と松本ぼんぼんの曲が遠い青春の思い出としてよみがえる。また、あの時と同じ夏がやって来た。

松本 ぼんぼん

作詞：上野浩

作曲：水谷川忠俊

振付：西田堯歌

松本 ぼんぼん

城のまち

山にみどりの 風吹けば

杉っぱ 青っぱ 青山さまが

堀のむこうから 町のつじ

どっこい じんじょ

どっこい じんじょ

ぼんぼん 松本 ぼんぼん ぼん

ぼんぼん 松本 ぼんぼん ぼん

ぼんぼん 松本 ぼんぼん ぼん

ぼんぼん 松本 ぼんぼん ぼん

どっこい どっこい じんじょ

(2)「山口ぼんぼん」について

九州支部 昭和62年卒 理 富田 和郎

我々の現役時代（S60年前後）、夏合宿は7月下旬に南北アルプスで行われ、各パーティーは下山すると松本に向かい、「集中」までの間を松本で過ごしていました。「松本ぼんぼん」はその間（8月第一土曜日）に行われ、我々もこの祭りに参加していました。

下山して松本で過ごしている時は、合宿を無事に終えた安堵と満足感、久しぶりの仲間との再会を楽しみながらも、お金がないので、空腹と暑さに茹だりながら何日も松本駅でゴロゴロしていました。そんな中、松本市内では「松本ぼんぼん」の歌が連日繰り返し流れており、祭りに向けて盛り上げていました。（夏の青空と「松本ぼんぼん」の陽気なリズムと弾む歌声が大きなマイクで流れている市内の光景が思い出されます）

「松本ぼんぼん」当日、夕方になるとTシャツ、ジャージ、ジョリッパにウチワを持ってスタート地点に整列します。

「松本ぼんぼん」に参加するようになったのは、S54・S55年になります。

今でこそ県下最大のお祭りとのことですが、この頃はまだ始まって数年で、新しい感じがあったようです。

そしてS57（私が入学する前年）からは正式な“連”として参加するようになり、私が参加していた頃にも「山口大学ワングル部」と書かれたプラカードが準備されていました。

祭りが始まると、音楽に合わせて踊りながら町を練り歩きますが、当時は曲の合間に市役所の方からビールや酒（真澄？）が配られていましたので、だんだんボルテージも上がり、「山口ぼんぼん」を歌い（叫び）ながら踊って盛り上がっていました。特別賞を頂いて更に盛り上がった覚えがあります。

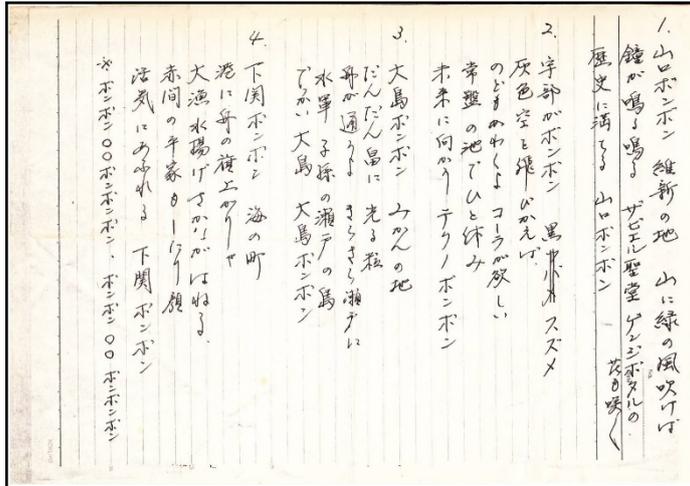
「松本ぼんぼん」については、インターネットで歌や動画がたくさん出ていたので是非見てみてください。我々アラ50世代は、あのズンチャー～♪で始まる曲を聞くと鳥肌が立つと思います。

さて、「山口ぼんぼん」は「松本ぼんぼん」の歌詞を変えたものですが、生まれたのはS55年（1980年）になります。私よりも4つ上のS58、3卒の泉谷さんが2年生の時に下宿で仲間と（厳密には正確でないようですが）作られたそうです。一ノ坂川の「源氏ボタルの花が咲く」のところがなかなかの仕上がり具合と自己満足された覚えがあるとのこと。確かに「維新」「ザビエル聖堂」「源氏ボタル」と馴染み深い言葉ですので、今でも歌詞を覚えています。特にザビエル聖堂の焼失前の姿を懐かしく思い出します。

そして、翌年（S56年）県内合ワンの中四合ワンの主管となった時に本部スタンプとして披露されたようです。

ただし、この時は1番のみで、2～4番で宇部、大島、下関が加わったのはS59年になります。我々（S62、3卒）が2年生の時に、県内合ワンの本部スタンプに向けて同期の阿須賀が作ったものです。我々の代もすっかり「ぼんぼん」の虜になっていましたので、更に発展させたいとの思いと、本部には定番のスタンプがなく毎回合ワんで苦慮していたことから出来たのだと思います。（当時の定番スタンプと言えば、工学部「武蔵」、高専「エッサッサ」、宇短「レナウン娘」などがありました）

※下の写真（阿須賀筆）は、今回の件で昔の資料を探している時に、第21回県内合ワン（この時も本部主管で錦町の平家ヶ岳・水ノ尾・長野・馬糞ヶ岳）の要項に挟まっているのを見つけたものです。県内合ワン前に、これを見ながら歌詞を覚えスタンプの練習していました。



今でも「山口ぼんぼん」が続いていると聞いて驚きました。「松本ぼんぼん」も伝統あるお祭りですが、「山口ぼんぼん」も30年以上脈々と続けられていることに感心します。今回「山口ぼんぼん」のことを、この様な形で振り返ることができ、記録に残せた(?)ことを嬉しく思います。これからも「両ぼんぼん」が後輩達に受け継がれていくことを願っています。そして、「松本ぼんぼん」で“山大ワングル連(OBを加えて)”復活も叶えたいと思っております。

あとがき

今回の寄稿の話があった時、「山口ぼんぼん」は我々の代が作ったと記憶していたので同期から聞けばよいと軽く考えていました。しかし、我々が作ったのは2番以降で1番を作ったのは稲葉さん(S59, 3卒)と聞き、電話で伺ったところ「それは勘違いで、1番を作ったのは泉谷さんの代」と教えて頂き、S58, 3卒の先輩方に問い合わせをさせて頂き。。。と奥深くなってきました。

先輩方には親切に教えて頂き、貴重な話をたくさん得ることができました。逆に、うまく文章で伝えられるかプレッシャーを感じていました。しかし、皆さんが当時のことを楽しそうに懐かしんでおられ、当の泉谷さんは今回のことがきっかけで今年の松本ぼんぼんを観に行かれるとのことで、その様な話を聞いていると、私もだんだん楽しくなってきました。

「山口ぼんぼん」の生い立ちを時系列にまとめると次の通りです。

- ・ S50 松本ぼんぼん誕生
- ・ S54～ 松本ぼんぼん参加
- ・ S55 山口ぼんぼんが出来る
- ・ S56 県内合W、中四合Wで本部スタンツとして踊る
- ・ S57～ 正式な“連”として松本ぼんぼんに参加する
- ・ S59 山口ぼんぼん(2番～4番)が追加される
- ・ 以降 本部スタンツとして定着し現在に至る

いつ頃まで「松本ぼんぼん」に参加していたのか分かりませんが、私が卒業してからも続けていましたので、少なくとも10年近く(北海道合宿を除いて)は「松本ぼんぼん」に参加していたこととなります。

また、なぜ稲葉さんと伝わったのか謎ですが、ご本人は当時「ロートル4年生」を「燃えよ中日ドラゴンズ」の替え歌で大ヒットさせていましたので、それで誤解が生まれたのかも知れないと推測されていました。格調高き「山口ぼんぼん」と間違えられて申し訳ないと恐縮されていましたが、替え歌達人所以、誤解されるのも納得できる様な気がします。

最後に、この度は、本当に先輩方には突然の電話やメールにも関わらず情報提供と励ましのお言葉ありがとうございました。

改めてワングルの絆を深く感じる事ができて感激しております。

あとがきのあと

やっぱりありました！

松本城のイラストが載ったウチワが家にあった覚えがあり、押入れの中を探してみたら見つけました。街で配られており、これを持って踊っていました。

88年と89年と書かれているのでどちらも社会人になって参加していたもの。



(3) 山口ボンボンの現況

4 回生 人文 小林 遼大

山口ボンボンの現況を報告します。山口ボンボンの習得には活動の中でも時間をかけており、また、他大にも披露するものなので、現役にとっても非常に印象ぶかい踊りです。今回、山口ボンボンに時間的な変遷があることを初めて知ったのですが、ここでは、近年の山口ボンボンについて、いつ、どのような気持ちで取り組んでいるのかについて、レポートします。

まず、いつ取り組むのかということについて。現役は、披露する一か月ほど前から練習を始めています。入部後、初めて披露する場合は、10月に開催される中国・四国合同ワンデリングなので、大体9月頃から練習を始めています。練習では、カセットテープに吹き込まれた曲を再生しながら、先輩から後輩へ、動きが伝えられてゆきます。

始めて披露する場合は、中国・四国合同ワンデリングです。そこでは、各学校がスタンツを披露するのですが、各学校とも、コントをやったりギャグをやったりと、なかなか強烈なスタンツを披露します。それに比べると、山口ボンボンは、ややインパクトに欠けると思われ、独自性を出す手段として、男性は服を脱ぎ、局部にヘッドライトを当てて踊ります。

では、どのような気持ちで取り組むのかということ、入部後、初めて踊りを外部に披露する際に、初めて裸で踊ることを教えられるので、驚きと、恥ずかしさの入り混じった気持ちです。しかし、踊っている最中には、他大からも踊りに加わってくれるよう、真剣に、熱く、踊ります。踊り手の真剣な思いが伝わり、次第に他大のメンバーも加わってくれ、踊りのムーブメントが起きるのが喜びです。県立大学との合同ワンデリングの際にも踊りを披露するのですが、そこでは裸になることはなく、女子と男子いっしょに、穏やかに、踊っています。

山口ボンボンは、学内の部員同士、他大の部員との交流を深める手段として、現在も、大いに活躍しています。

(4) 山口ボンボンの歌詞(第51回中国四国合同ワンデリング歌集より転載)

1. 山口ボンボン 維新の
山の緑の 風吹けば

2. 宇部がボンボン 黒スズメ
灰色空を 飛び交えば

鐘がなるなる ザビエル聖堂
源氏ボタルの 花も咲く
歴史に満ちる 山口ボンボン
(そうれ)
ボンボン山口ボンボンボン
(繰り返し4回)

のども渴くよ コーラが欲しい
常盤の池で 一休み
未来に向かう テクノボンボン
(そうれ)
ボンボン宇部がボンボンボン
(繰り返し4回)
どっこいどっこいじんじょ
(繰り返し8回)

3. 大島ボンボン みかんの地
段々畑に 光る粒
船が通うよ キラキラ瀬戸に
水草子孫の 瀬戸の島
でっかい大島 大島ボンボン
(そうれ)
ボンボン大島ボンボンボン
(繰り返し4回)

4. 下関ボンボン 海の町
港に船の 旗上がりゃ
大量水揚げ 魚が跳ねる
赤間の平家も したり顔
活気あふれる 下関ボンボン
(そうれ)
ボンボン下関ボンボンボン
(繰り返し4回)
どっこいどっこいじんじょ
(繰り返し8回)



9 現役活動報告

(1) 執行部近況報告

農学部 3年 浅川 佑二

現在、本学の主将を務めさせていただいている、農学部生物資源環境科学科3年の浅川佑二と申します。部活動の近況報告をさせていただきます。

今年は、12名(うち工学部2人)の1年生が入部してくれました。今年も去年と同様に全員男子となりました。今年も10人を超える人数が入部をしてくれ、日々トレーニングに励んでいます。しかし、部員数が増えたことにより全体をまとめるのが難しくなるように思います。現在月に1度部会を設け、その月の連絡や何か問題があればその点について話し合いをしたりと、全体での情報、活動方針の共有を行っています。

最近の部活動は、夏合宿に向けての計画立てや、夏合宿に向けた体力づくりを中心にトレーニングをしています。計画は2年生を中心に行っており、合宿に向けて山へ登り山行技術などの訓練を積んだり、合宿に向けた準備を進めています。まだまだ実践経験などの面で不安な点もありますが、無事やり遂げてくれると思っています。

短いようですが、以上で近況報告とさせていただきます。

＜平成27年度本学執行部＞

役職	氏名	学部	学年
主将	浅川 佑二	農	3年
副将	河村 莉佳	農	3年
主務	中村 優太	理	3年
	亀田 雄太郎	人文	2年
会計	前田 雄太	経済	2年
渉外	吉崎 大輔	経済	2年

＜平成27年度工学部執行部＞

役職	氏名	学年
主将	渡井雅巳	3年
副将	主務 会計	
	畷田広志	3年

(2) 春合宿報告

農学部 3年 浅川 佑二

昨年度の春合宿は、3月5日から9日にかけて、屋久島で行いました。天候に恵まれ、自然を満喫することができました。

・AP

鹿児島中央までJRを乗り継ぎ、高速船で安房港へ行きました。そこから番屋峯キャンプ場へ移動しました。

■1日目

朝方にキャンプ場を出発し、荒川登山口から縄文杉を観に行きました。その後、番屋峯キャンプ場にテントを張り、初日の行程を終えました。

■2日目

トロッキーの滝、千尋の滝に向かい、里樹林を体で楽しむキャノッピという施設を訪れました。屋久島ユースホステルに移動し、2日の目行程を終えました。

■3日目

屋久島フィールドセンターで、カヌーを体験しました。オーシャンビューキャンプ場へ移動しました。

■4日目

オーシャンビューキャンプ場付近を散策した後、宮之浦港で解散しました。

・まとめ

今回の春合宿は事故など起きることが無く無事に終わられて良かったです。夏合宿ではエスケープしたパーティーもあった中、こうして無事に合宿を終えられるという経験は貴重なものだと感じます。現2年生は後輩も入り先輩になりましたので、今回の経験をこれからは活かして貰いたいと思っています。

(3) 平成 27 年度山口大学ワンダーフォーゲル部活動計画表

農学部 3 年 浅川 佑二

【新入生歓迎フェスティバル】

今年の新入生歓迎フェスティバルは 4 月 5 日に行われました。去年の反省から情報の共有を徹底しました。多くの新入生がブースに来てくれました。ワンダーフォーゲル部の名前を広めることは出来たと思います。

【県内合同ワンデリング】

今年の県内合同ワンデリングは 5 月 3 日～5 日に、下関の深坂の森自然の公園で今年も山口県立大学と水産大学校とともに行いました。しかし、2 日目からは天気に恵まれず、龍王山登山はすることが出来ませんでした。また、まだまだ準備不足の点もあり、課題を多く見つけることの出来た 3 日間でした。

【海合宿】

今年は 9 月 5 日～6 日に、萩にある OB の方ご所有のハウスをお借りして海合宿を行わせていただく予定です。今年は日程がうまくかみ合わなかったため、9 月の予定となりました。今回の海合宿では山口県立大学にも参加をしてもらおうと考えています。

【夏合宿】

今年の夏合宿も、縦走パーティーとピストンパーティーに分かれ、北アルプス、ハヶ岳を山域としたコースを予定しております。以下、行程表です。

■縦走パーティー

- (1 日目)高瀬ダム→烏帽子小屋泊
- (2 日目) 烏帽子小屋→三ツ岳→野口五郎岳→東沢乗越→水晶岳ピストン→水晶小屋泊
- (3 日目)水晶小屋→ワリモ北分岐→鷲羽岳→三俣山荘→ルート分岐点→双六小屋
- (4 日目)双六小屋→樺沢岳→千丈乗越→槍ヶ岳山荘→槍ヶ岳ピストン→槍ヶ岳山荘→殺生ヒュッテ
- (5 日目)殺生ヒュッテ→槍沢ロッヂ→横尾→徳沢→明神→上高地

■ピストンパーティー

- (1 日目)美濃戸口→赤岳鉱泉
- (2 日目)赤岳鉱泉→行者小屋→阿弥陀岳→中岳→赤岳→横岳→硫黄岳→赤岳鉱泉
- (3 日目)赤岳鉱泉→硫黄岳→根石岳→東天狗岳→西天狗岳→黒百合ヒュッテ
- (4 日目)黒百合ヒュッテ→渋の湯→JR 茅野

【中国四国合同ワンデリング】

今年の中国四国合同ワンデリングは、10 月 10 日～12 日に愛媛大学が主幹校として行います。A、B、C ブロックに分かれて登山観光を行います。A ブロックは石鎚山登山を、B ブロックは面河溪へ、C ブロックは愛媛観光などといったことをそれぞれ計画されています。

【追い出しコンパ】

今年の追い出しコンパでは、8 人の先輩方を送り出させていただきます。本学の先輩方にはもちろん、工学部の先輩方にも非常にお世話になってきたので、感謝の気持ちを込めてお送りしようと考えています。

【春合宿】

今年度の春合宿は、例年同様に南の島でのトレッキングにしようかと考えています。行先は未定なので、これから部員同士で話し合いをし、計画を進めていこうと思います。

10 編集後記

今年度、微力ながら一年間事務局長の仕事を務めさせていただきます、4 回生の小林遼大と申し

ます。

さて、私が入部した4年前と比べますと、現在のワングルはますます規模が大きくなってきております。今年度も、12名の新生が入部してくれました。ますますワングルの活動が活発になっていくことに喜びを感じると同時に、一昨年から入部者が全員男性ということになっていきますので、ぜひ女性にも入部してもらい、ワングルの楽しさを味わって欲しいなと思っております。

近頃は、夏合宿の安全対策の為にときどき部活に顔を出す程度の参加率ですが、トレーニングや安全対策・講習会などに熱心に取り組み、精悍な顔つきになった後輩の姿を、頼もしく感じております。

彼らと安全対策に取り組んでいますと、本格的な活動から離れて半年も経っていないのに、熱心に取り組んでいた頃が、懐かしく思い出されます。また今回も、OBの方々の登山のお話を聞き、ますます山への思いが掻き立てられました。いずれまた、現役の部員たちと登山したいものです。

今年度は、OB総会にも現役を呼んでいただいておりますので、歴史ある山大ワングルがますます盛り上がることになれば、と思っております。

最後になりますが、今回OB通信に寄稿してくださった皆様、そして編集に携わってくださった皆様に、深く感謝申し上げます。